

このページは、小・中学生に向けて小学生によるさまざまな仕事体験を紹介し、記事は梅光学院大学子ども学部子ども未来学科の学生が作っています。

しものせき キッズページ

どいがはまいせき じんるいがく 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムで お仕事体験!! 2



12月号の参加者(前列左から)滝部小学校4年の永富凛さん、井田愛花さん、(後列左から右へ)静間凌輔くん、中嶋凛くん、中村洸太くん

今回も、豊北町にある土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムで学芸員体験をしてきたよ。学芸員のお仕事をおさらいしておくと、学芸員は、資料を集めたり調べたり、展示したりする専門家のことだったよ。

前回は発掘された骨をつなぎ合わせるお仕事をしたけれど、今回はどんな体験ができたのかな？

1階の資料を置く部屋に行くと、人間の骨がどうなっているかを確認したよ。手や足、胸などの骨がどの位置にあるか学芸員の大数さんに聞きながら、ぼらぼらの状態の骨の模型を、きちんとした並びに替えたよ。特に足や腕の骨は似ている骨が多くて、みんな迷っていたよ。

模型の骨で勉強したら、骨(本物)が入った箱を別の部屋に移動させる作業だよ。発掘された後、土を落としてつなぎ合わせた状態の骨が保管されているんだけど、その骨をきれいに箱に移してから、箱に名札みたいなシールを貼って保管用の部屋にきちんと並べていったんだよ。みんな骨を壊さないように慎重に作業をしたよ。



次は保管用の部屋からミュージアム内に骨を持って行って展示をするお仕事だよ。ミュージアムでは、定期的に展示を変えて、何度ミュージアムに来てもそのたびに勉強できるようにしてるんだね。

今回は、「英雄」の骨と「矢尻」の展示に変える作業をしたよ。「英雄」っていうのは、土井ヶ浜で発掘されたものの中で、矢尻が刺さったまま埋葬されていた人の骨なんだ。すごく貴重なものなんだけど、その展示を任せてもらったよ。矢尻が刺さっていたことが見た人に分かるように、「こうやって並べた方が見えて分かりやすいよ」とか、曲がっているよ」とか言いながら、すごく時間をかけて展示の作業をしていたよ。何で「英雄」って言うかは実際にミュージアムに行くと確認してね。



編集委員
中西莉子さん(左)、原田知佳さん(右)

みなも、ゼミミュージアムに行ってみてね。もしかして、今回のお仕事体験で展示した「英雄」の骨が見られるかもしれないよ。

今回も土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムで学芸員のお仕事体験をさせてもらって、専門家のすごさがとてもよく分かったよ。いろいろと遺跡や発掘された骨のことを質問したけど大数さんはすぐに答えてくれたよ。頭の中に遺跡や骨のことがいっぱい詰まっているんだって感じたよ。

めっけんごうい！
行ってみてね！

アツいかなあ？